



# 主要中央市場12年度の動き

## 本場6%減の1041億円

### 冷凍10%減など苦戦

## 大阪市場

大阪市中央卸売市場本場の2012年度(12年4月～13年3月)取扱高(暫定値)は、数量が12万8558ト(前年度比5%減)、金額が1041億5000万円(6%減)だった。卸2社とも数量に比べ金額の落ち込みが大きく、平均単価はキロ862円(1%安)だった。一方、東部市場の12年度取扱高(暫定値)は数量が5万3324ト(5%減)、金額が460億5300万円(7%減)だった。本場と同じく卸2社とも金額の減少幅が数量より大きかった。部門別取扱高は、生鮮水産物472億6700万円(4%減)▽冷凍水産物230億7800万円(10%減)▽加工水産物311億1500万円(5%減)▽その他26億5300万円(2%減)だった。卸2社とも数量に比べ金額の落ち込みが最も大きかった。一方、東部市場の12年度取扱高(暫定値)は数量が494506ト(100.0%)、金額が394495億円(97.3%)だった。

## 名古屋市場

## 本場5%減の999億円

### 金額の減少幅広がる

名古屋市中卸売市場本場の2012年度(12年4月～13年3月)の取扱高は、各社とも数量、金額が前年度を割り込んだ。数量の落ち込み幅は前年より縮まったが、金額の減少幅は3社とも前年より広がった。卸売会社3社の合計取扱高は、数量が12万7237ト(前年度比4%減)だった。金額が999億3000万円(5%減)で、平均単価は785円(前年度並み)だった。金額は1000億円を割り込む結果となった。平均単価は2社が前年度を上回った。サンマの漁獲不振などで生鮮水産物の入荷が減少。冷凍、加工水産物も入荷減や単価安に苦しんだ。

## 福岡市場

## 6%減の443億円

### 数量7%減、8万4603ト

福岡市鮮魚市場の2012年度取扱高は数量が8万4603ト(7%減)、金額が443億1000万円(6%減)だった。部門別で見ると、全体が8割強を占める青物などは鮮魚が7.6%減の7万2873ト、8%減の443億1879万円となり、数量で冷凍品が増えたものの、鮮魚や塩干品が減少した。キロ平均単価は0.6%高の524円。鮮魚を柱に24%増の8561ト、2.2%減の68億918万円。塩干品が16.7%減の3170ト、5.2%増の27億8646万円。単価は26.3%高の879円と伸長した。

## 2012年度の主要市場取扱高

(単位=数量:ト、金額:百万円、単価:円/キ)

札幌市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
力ネシメ高橋水産	54,261	100.9%	52,134	100.8%	961	100.0%
丸水札幌中央水産	55,877	100.3%	45,847	104.6%	820	104.2%
合計	110,138	100.6%	97,981	102.6%	890	101.9%

仙台市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
仙台水産	54,337	100.9%	42,025	104.0%	773	108.8%
仙都魚類	40,842	104.0%	31,749	101.4%	777	99.7%
合計	95,179	101.2%	73,774	102.8%	775	101.6%

築地市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
大都魚類	94,765	102.8%	78,090	98.0%	824	95.4%
中央魚類	105,205	108.3%	87,830	99.4%	835	91.8%
東都水産	82,638	98.8%	75,718	97.3%	916	98.5%
築地魚市場	89,120	98.2%	64,751	94.7%	727	96.5%
第一水産	44,962	94.5%	37,886	95.5%	843	101.1%
丸千代田水産	69,231	93.2%	41,598	97.1%	601	104.1%
総合食品	8,585	94.2%	8,621	99.1%	1,004	105.2%
合計	494,506	100.0%	394,495	97.3%	798	97.4%

名古屋本場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
中部水産	52,519	97.8%	38,354	96.1%	730	98.2%
大東魚類	43,077	93.7%	38,026	94.0%	883	100.3%
名古屋海産市場	31,641	95.0%	23,550	95.6%	744	100.6%
合計	127,237	95.7%	99,930	95.2%	785	99.5%

名古屋北部市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
名北魚市場	27,763	101.1%	21,424	97.1%	772	96.1%

大阪本場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
うおいち	76,590	93.3%	69,034	92.8%	901	99.5%
大水	44,268	98.7%	35,116	97.3%	793	98.6%
合計	120,858	95.3%	104,150	94.3%	862	99.0%

大阪東部市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
うおいち	26,936	93.4%	25,372	90.6%	942	97.1%
大水	26,387	96.2%	20,681	94.9%	784	98.6%
合計	53,324	94.8%	46,053	92.5%	864	97.6%

広島市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
広島魚市場	19,442	96.1%	16,563	93.8%	852	103.0%
広島水産	15,917	95.4%	12,301	94.5%	773	105.6%
合計	35,359	95.8%	28,864	94.2%	816	104.2%

福岡市場						
	数量	前年比	金額	前年比	単価	前年比
福岡魚市場	65,363	93.9%	32,802	92.8%	502	98.8%
福岡中央魚市場	19,241	90.2%	11,517	96.1%	599	106.5%
合計	84,603	93.0%	44,319	93.6%	524	100.6%

## 20年超える歴史に幕

### 「鮭の日」委員会 4月で活動中止

11月11日の「鮭の日」を中心に、鮭並びに魚全体のPRや消費拡大に長期、取組んできた「鮭の日委員会」(代表・木本慧 大阪市水産物卸協組副理事長、長尾昌哲 大阪府水産物卸協組理事)が4月末日をもって、初期の目的を達成、その活動を休止、20年以上に及ぶ歴史の幕を閉じる事を決めた。

同委員会は、輸入鮭鱒の供給量が飛躍的に増大したことを背景に、平成4年、大阪3市場の卸売2社と仲卸3組合が母体となり、鮭の日制定委員

会として発足、毎年11月11日を「鮭の日」と定め、翌年には京都、神戸も参加、京阪神地区の卸売会社、仲卸組合が母体となり、平成6年9月からは名称を「鮭の日委員会」と改称、鮭全般の拡販を目的に、いろいろな宣伝やPR活動を展開してきた。

平成6年から農林水産省の後援組織となり、平成15年には、日本記念日協会から、正式に11月11日は「鮭の日」と認定された。

また、平成19年度からは、各水産物卸組合の上部団体である全水卸組連・全国水産物卸組合連合会の制定した10月10日の「魚の日」に連動、鮭だけでなく魚全体の普及も含めた宣伝・PR活動を実施してきた。

その結果、量販店で「鮭の日」を冠にした特売企画が頻りに出たり、プレゼントの応募も10万通を超え、など大きな実績を積み上げ、委員会としても、鮭を含めた魚食普及、販売促進に、いささかなりとも貢献できたと思われ、また、活動中止にあたり、長年にわたり、委員会の諸活動に理解・協力いただいた各位に心からお礼申し上げたい、としている。